

循環器内科専門医と認定(循環)理学療法士が教える

PT・OT・STが循環器疾患のリハを 基礎から実践まで深く理解するセミナー(福岡)

講師



渡会昌広 先生

厚生クリニック院長
日本循環器学会認定循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会認定医
理学療法士・心臓リハビリテーション指導士



小林直樹 先生

湘南藤沢徳洲会病院主任理学療法士
認定(循環)理学療法士・心臓リハビリテーション指導士
集中治療理学療法士・
北里大学大学院医療系研究科修士課程修了

医師の頭の中を想像します。

心不全にしても、急性心筋梗塞にしても、大動脈解離にしても、救命のため医師はフルスピードで治療にあたります。薬を処方し、カテーテル治療を施し、必要なら外科治療に踏み切る。一気に進む医師の治療に療法士は後から合流するのです。

臨床医のスピード感やさじ加減、肌感覚。これらを理解して滑らかに治療に合流する知識を身につけます。

医師が瞬時に行っている病態理解や治療方針の決定の仕方について一定程度の理解が必要です。なぜこの治療法が選択されたのか、どの程度の強さの治療法か、どの程度の期間行われるのか。例えばこれらの理解なくして、適切な程度のリハビリテーションで治療に合流することはできません。

病態理解や治療方針の決定の仕方を理解することに徹底的にこだわります。

基本となる病態理解や治療方針の決定の仕方が分からなければ、今が良い状況なのか悪い状況なのか判断できません。このセミナーでは、「基本の部分」を徹底的に理解します。

数字を読むことがリスク管理ではない。病態を理解し、本当のリスク管理を身に着けます。

単に血圧を測ったり、心電図を読むことだけがリスク管理ではありません。病態を理解し、病勢を理解し、治療方針や予後を理解することそのものがリスク管理の本体です。血圧や心拍数や心電図はただの補足。本体の理解を深めるためのツールでしかありません。「心拍数130」を確認するだけでは不十分。「なぜ今頻脈なのか」を理解することがリスク管理です。

プロの療法士が必要な理由。

リハビリテーション、特に運動療法やADL指導などは病態、病勢に合わせて微調整することが求められます。アクセルを踏んだり、ブレーキを踏んだりするような感覚です。病態理解とリハビリテーションをリンクさせるとも言えます。このさじ加減の難しさが、病態を理解し運動生理学に精通したプロの療法士が必要な理由です。

セミナー内容

対象: PT / OT / ST / その他

循環器疾患の病態理解と治療方針の決定、治療の実際の全てを学ぶ！

- ①循環器系の解剖生理を概観する
- ②循環器系の病態を理解する
(心筋梗塞・狭心症・弁膜症・大血管・末梢血管)
(バイタルサインや身体所見やレントゲンや採血やエコーや…様々な所見からどのように病態を理解するか)
- ③病態に合わせてどのように治療が選択されるのか
- ④具体的な治療の実際を理解する
(薬物療法やカテーテル治療や手術療法など)

循環器疾患を理解した上で... 病態理解とリハビリテーションのつなぎ方の全てを学ぶ！

- ①病態生理からどのようにリスク管理を行うか
- ②安全な運動強度をどのように決めるか
(ATとは何か・機器(CPX)が無い場合どうやって評価するか)
- ③具体的なADL指導の仕方、運動療法の考え方を理解する(具体的にどのように指導するのか)
- ④最近の話題(フレイル・サルコペニア・認知機能・抑うつ症状)ケースステディー
- ⑤質疑応答

日時

2025年12月21日(日) 10:00~16:00(9:30受付開始)

リファレンス大博多ビル 福岡市博多区博多駅前2丁目20-1 大博多ビル11F

受講料 13,000 円 (3名以上でお申込みの場合は11,000円/人)



リファレンス大博多ビル

お申し込みは **Webサイト** で賜ります

ナレッジリンク

検索

<https://www.knowledgelinkreha.com>


ナレッジリンクHP